

令和 2 年 12 月 2 日

行政政策学類刑事政策ゼミから矯正・更生保護関係者へのエールに 続々と御礼が届いています！

行政政策学類刑事政策ゼミ（担当教員：高橋有紀）では、福島県内の更生保護施設（至道会、福島自立更生促進センター）に手紙とクッキーを送るとともに、全国の刑務所、少年院、保護観察所に手紙を送り、コロナ禍で更生に励む人々や彼らを支える職員を激励しました。これらの活動について、11月5日付で福島保護観察所長感謝状が贈られたほか、法務省保護局や全国の刑務所、保護観察所の職員、刑務所の被収容者から御礼の手紙が多数寄せられています。

行政政策学類刑事政策ゼミ（担当教員：高橋有紀）では、前期のゼミで、コロナ禍により刑務所や少年院、保護観察所の業務にも影響が生じていることや、全国の刑務所で医療用ガウンやマスクを作り医療従事者らに寄贈していること、英国ではこうした困難な業務にあたる矯正・更生保護関係者をコロナ禍における「隠れたエッセンシャル・ワーカー」として応援する動きがあることを学びました。そして、コロナ禍で更生に励む人々や彼らを支える人々を応援しようと、地域の更生保護施設にクッキーと手紙を届けたり、全国の刑務所、少年院、保護観察所（計 181 か所）に手紙を送ったりしました。

これらへの反響は予想以上に大きく、11月には、福島自立更生促進センターへの手紙とクッキーの寄贈に対して、福島保護観察所長感謝状を贈呈されました。また、法務省保護局や全国の刑務所、保護観察所からの御礼の手紙のほか、刑務所内で当ゼミの手紙を見聞きした被収容者からも御礼の手紙も寄せられました。さらに、法務省保護局から届いた手紙の中で、こうした活動を全国的なムーブメントにしてほしいとの励ましを受け、現在もゼミの Twitter で更生保護について発信を続けています。

福島県でも地方再犯防止推進計画の策定が進む今日、こうした当ゼミの活動は再犯防止の推進に対する社会の関心を高めるものでもあり、ぜひ多くの方に知っていただきたいと思っています。

その他詳細は、別紙をご参照ください。

（お問い合わせ先）
行政政策学類准教授 高橋 有紀
電 話：090-5033-9296
メール：y-takahashi@ads.fukushima-u.ac.jp

- 当ゼミから送った手紙について
 - ・前期のゼミの一環として、3、4年生がグループに分かれて手紙を作成しました。当時はゼミも遠隔授業だったので、グループごとにLINEのグループ通話やメールで文案やレイアウトを相談し完成させました。
 - ・更生保護施設に届けた分について
至道会の班、福島自立更生促進センターの班それぞれ10～11名で作成し、7月上旬に各代表3名が施設を訪れ、クッキーとともに手渡しました。
 - ・刑務所、少年院、保護観察所に届けた分について
刑務所班、少年院班、保護観察所班それぞれ6～7名で作成し、8月上旬に全国の刑務所、少年院、保護観察所に郵送しました。
- 当ゼミに向けた御礼の手紙等について
 - ・8月中旬以降、各地の刑務所や保護観察所の職員、法務省幹部、刑務所の被収容者らから御礼の手紙が届きました。社会からなかなか目が向けられない矯正・更生保護の現場に関心を持ち応援しようとする学生の存在に職員も被収容者らも勇気づけられたことを感謝するとともに、遠隔授業やアルバイトの減少など学生の苦労を思いやる内容のものが多かったです。
 - ・刑務所や保護観察所では、被収容者や面接等にきた保護観察対象者が当ゼミの手紙に触れられるよう、刑務所の館内放送や朝礼で読み上げたり、拡大コピーして刑務所の講堂や保護観察所の待合室に貼り出したりしてくれたところも多くありました。
 - ・福島自立更生促進センターに手紙とクッキーを贈った活動については、11月5日付で福島保護観察所長感謝状が贈られ、11月20日に福島保護観察所会議室にてゼミの代表者2名が観察所長より感謝状と記念品を受け取りました。
- 当ゼミのTwitterについて
 - ・法務省幹部から届いた手紙の中で、当ゼミの活動が「隠れたエッセンシャルワーカー」を応援するイギリスの取組みに示唆を得たものであることに触れ、そうした活動を全国に広めてほしいとあったことから、現在も毎週火曜日に4年生が交代で更生保護について発信する活動をしています。
 - ・来年度以降は現3年生に引き継ごうと思っています。⇒Twitterはこちらでご覧いただけます。

